# 2 地域特性と災害リスク

# 2.1 地域特性

# (1) 位置・面積

本市は千葉県の北西部に位置し、東京都心部から20km圏、千葉市 中心部から15km圏にあり、東は習志野市、八千代市、西は市川市、北 は鎌ケ谷市、白井市に接し、南は東京湾に面している。

市の面積は、85.62kmである。東西13.86km、南北14.95km に 広がっており、千葉県面積の約60分の1を占めている。

# (2) 地形·地質

市の地形は、下総台地と東京湾岸低地を主とする低地に大別できる。

下総台地は、千葉県の北半部を占めており、海抜約20~100mの比較的平坦な地形を形成している。市域の中~北部のほとんどは台地となっており、最高点は習志野3丁目付近の約32.3mであり、標高の平均は約24mとなっている。



出典:船橋市地域防災計画(令和2年4月)



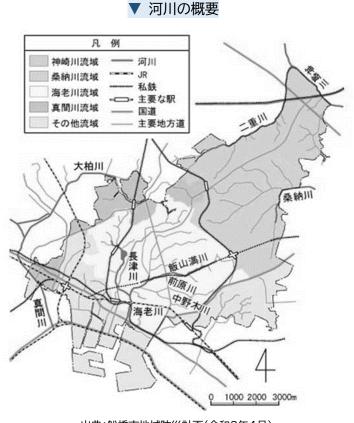
#### ▲ 本市の位置

また、低地は、東京湾にそそぐ江戸川 がつくる三角洲や海岸平野、海老川や 桑納川などの河川により侵食された谷 に沖積層が堆積し形成された谷底平野、 台地前面にひろがる浜堤・砂州、海面の 大規模な埋め立て等による人工地形か らなっている。

地質については、北部の台地は、関東 ローム層と呼ばれる赤土で占められ、 谷底平野は、砂質、粘土質及び腐植土 などの沖積層、臨海部は、埋立地堆積 物で構成されている。

#### (3) 河川

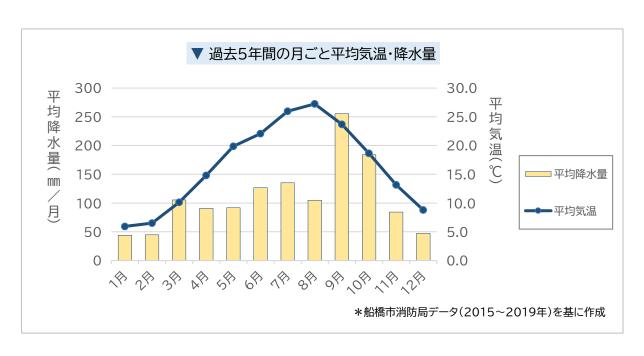
市内には、利根川水系の真間川・神崎川・二重川・桑納川といった一級河川や、海老川及びその水系の長津川・飯山満川といった二級河川などが流れている。



出典:船橋市地域防災計画(令和2年4月)

## (4) 気象

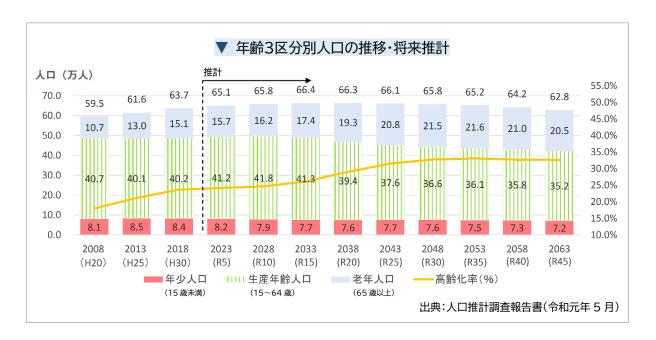
気象は、東京湾に面した海洋性の気象で、関東平野中心部の気象区に属し、1年を通じおおむね温暖な気候となっている。なお、過去5年間の平均気温は16.4℃、年間平均降水量は、約1.300mmとなっている。



# (5) 人口

市の人口は、東京都心部から20km 圏にある立地条件や交通機関の整備、大規模団地の造成などによる宅地化の進展により、昭和35年の約13.5万人から昭和58年には50万人を超えるまでに急激に増加した。その後、人口増加の割合は緩やかになったものの、増加傾向が続いており、令和2年10月現在の人口は、約64.4万人となっている。年齢別人口の割合は、年少人口(15歳未満)が約13%、生産年齢人口(15~64歳)が約63%、老年人口(65歳以上)は約24%となっている。

今後も市の人口は緩やかに増加を続け、令和15年の66.4万人をピークとして減少に転じ、 令和25年には66.1万人となると推計している。



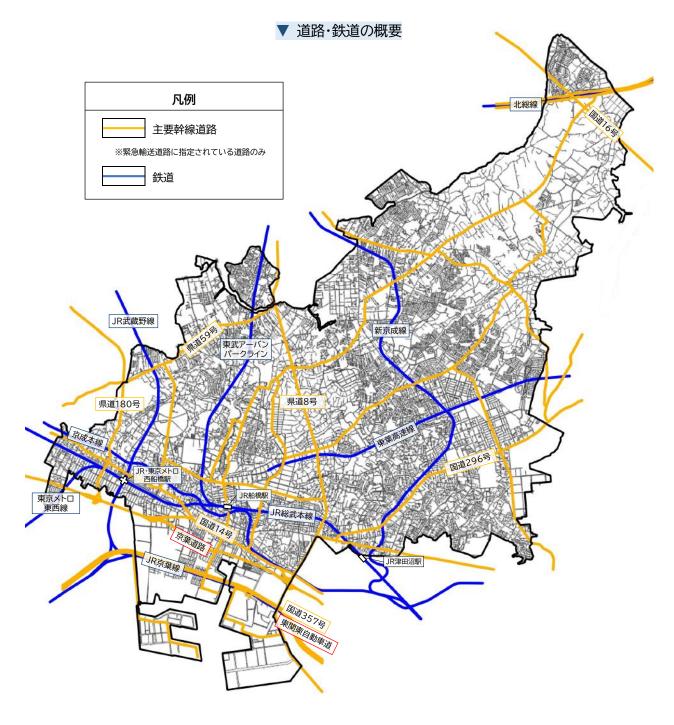
#### (6) 道路

広域的な連携機能を担う京葉道路、東関東自動車道の自動車専用道路2路線や主要な幹線 道路である国道14号(千葉街道)、国道16号、国道357号や県道8号(主要地方道船橋我孫 子線)などの国県道のほか、都市計画道路の整備により幹線道路網を構成している。

## (7) 鉄道

鉄道は、東西方向にJR総武本線、JR京葉線、東京メトロ東西線、東葉高速線及び京成本線、南北方向では、JR武蔵野線、東武アーバンパークライン、新京成線、また、北部地域には北総線の9路線がある。

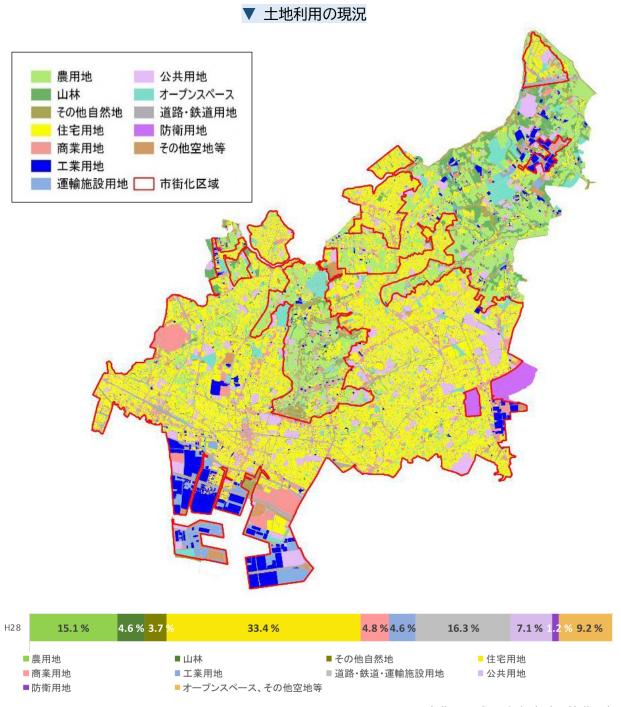
内陸部の宅地化に伴う交通需要の増加により、JR船橋駅をはじめとする各乗換え駅では非常に混雑している状況となっており、市内35駅における1日の平均乗車人数(令和元年度)は、96万人に達している。各駅の1日の乗車人数は、JR船橋駅が約14万人、JR津田沼駅が約10万人、JR及び東京メトロ西船橋駅がそれぞれ約14万人であり、鉄道交通の拠点となっている。



#### (8) 土地利用

鉄道駅を中心として市街化が図られ、一定程度コンパクトな市街地が形成されている。一方で、近年は市街化区域縁辺部の市街化調整区域における開発が進み、鉄道駅から比較的遠い場所での市街化が進んでいる。現在は、住宅用地が約33%、農用地が約15%などとなっている。

なお、工場・社宅等の跡地においては、マンションや大規模商業施設への土地利用転換が進行している。



出典: 平成28年都市計画基礎調査